

<八代市・芦北町・津奈木町／市町長・議長>

日 時：令和2年11月6日（金）10時00分～11時00分

会 場：八代総合庁舎5階大会議室

参加者：6名

【八代市長 中村 博生】

おはようございます。まず、本日はこういった意見を聴いていただく機会を作  
っていただきまして、感謝を申し上げたいと思います。

また、これまで知事におかれましては、それぞれの地域に出向かれ、復旧・復  
興、そしてまた治水に関する意見等を聴く会をやっていただいております。本当  
におつかれさまでございます。

まずは、お礼を先に言わせていただきたいと思います。

今回の豪雨災害に対しまして、本市からの自衛隊への災害派遣要請につつま  
しては迅速なご対応をいただきました。

そしてまた、発災時から継続的な人的支援、そして物資の支援をいただき誠  
ありがとうございます。

そして、発災後の応急的な復旧につつましては、特に甚大な被害を受けました  
坂本町の国道219号等の社会インフラから、下流域や八代海に流出しました  
木材、瓦礫等にも早急にご対応いただき、市民を代表いたしまして厚く御礼を申  
し上げる次第でございます。

さらに、被災者に対する球磨川流域復興基金交付金につつましても、知事の専  
決処分によりまして10月補正でご準備いただくなど、改めて御礼を申し上げ  
ます。

今後も必要な事業につつまして対象事業を追加していただくなど、柔軟な対  
応をよろしく願いしたいというふうに思います。

災害からもう4か月経過いたしました。復旧につつましては、うちも坂本地域  
8つの地域振興会がございます。

そして2つの仮設住宅。11月2日に八代の地域の懇談会も終わりました、一  
昨日11月4日に市民球場にあります仮設住宅の皆さんからもご意見をいただ  
いているところでございます。

幹線道路であります国道219号をはじめ、県道中津道八代線、破木二見線、  
流失しました橋梁などの社会インフラにつつましては、今後の災害時の避難路  
の確保という観点からも、洪水等に対し、より安全性や利便性を高めた復旧とな  
るよう尽力をお願いしたいというふうに思います。

河川につつましては、球磨川をはじめ支流も含め、土砂堆積に対しては、いつ

また大雨が降るか心配される声が大変多く寄せられております。

早急な対応をお願いするとともに、河川堤防につきましては、坂本町の堤防の早期復旧はもとより、下流域の堤防あるいは海岸の堤防に関しても、今回の洪水によって漏水等のご心配をいただいております、必要な措置を講じていただきたい。

そして山林に関しましても、伐採後に植林されずに山が荒れている、間伐材が放置されていたというご意見や、特に流下に建設いたします砂防ダムの堆積した土砂についての声が寄せられております。早急に調査のうえ、必要な措置を講じていただきたいと思っております。

また、坂本町は高齢化率約60%という高い地域でもございます。

2つの病院が被災し、町は無医療地区となっておりますことから、早急な医療体制の確保についてご支援をお願いしたいというふうに思っております。

これについては県、そして医師会、市等、いろいろ協議をさせていただきますので、ぜひともよろしくをお願いしたいというふうに思っております。

復興については12月の復興計画策定を目指して8月に八代市の復旧・復興推進本部を立ち上げております。

これまで有識者等で構成します策定委員会をはじめ、坂本町地域住民のご意見、ご提案を計画に反映させるための地域懇談会や旧小学校、8校区での地区懇談会、仮設住宅にお住まいの方との懇談会を開催しております。住民の方に寄り添った計画づくりを進めてきているところであります。

住民の皆さんからは、安全安心な住まいの確保、地域コミュニティを維持するための施設、そして医療の確保、農林水産業の振興、商工業への支援、観光振興、道路河川の整備、八代市坂本支所の整備、そして防災体制の整備といった幅広いご意見ご提案をいただいております、今後の計画に反映させていただくこととしております。地域振興につながる創造的な復興を進めるためにも、社会インフラの整備や財政的支援をはじめ様々なご支援をお願いいたします。

治水に関しましては、球磨川流域、下流域にあります本市におきましては、4名の尊い命が奪われて、今もなお1名の方が行方不明という状況にございます。被災された方々をはじめ流域に暮らしてこられた住民からも、もうこの場所には住めないとか、再建してもまた水害に遭うのではないか、安全なのか検証してほしい、といった切実なご心配をいただいております。

人命が失われたこと、また市民の声を重く受け止めまして、二度とこのような災害を招いてはならない、そういう思いでおります。

知事におかれましては、新たに球磨川流域治水協議会を立ち上げていただき、治水の考え方をお示しいただきましたが、やはり地域住民のそのような不安、心配を払しょくし、早期の生活再建を促進するためには、今回の豪雨災害を踏まえ、令和2年7月球磨川豪雨検証委員会の検証結果等に基づき、ダムをはじめとし

た抜本的な治水対策を講じる必要があると考えております。

今年度内を目標に工事をするというスケジュールを示していただいておりますが、地域住民の安全のためにも、少しでも早く治水対策をとりまとめ、公表いただきたいと考えております。

そしてまた坂本町は荒瀬ダムが撤去された町でもございます。ダムの是非を巡って様々なお立場の人たちがそれぞれのご意見を発信されております。

私としましては、ダムによって地域が分断されてはいけなく強く思っております。治水対策の方針を決定される場合は丁寧な説明もお願いしたいというふうに思います。

自分自身は、4名の方、そして1名の方が行方不明ということもございまして、今回4名、そして行方不明1名の方の人命、財産を守れなかったことを大変残念に思いますし、先ほども言いましたけれども二度とこういいたことがないようなことをやっていただかなければならない。そのためにはダムは必要であろうというふうに考えておりますので、その辺もよろしくお願いしたいと思います。

#### 【八代市議会議員 中村 和美】

皆様おはようございます。着席のまま申し訳ございません。八代市議会議員の中村でございます。

先ほど市長のほうからもありましたが、知事におかれましては今回の豪雨災害により日々変化する被災地の状況に対する迅速な対応をはじめ、発災時に様々なご支援をいただき誠にありがとうございます。

また、知事、副知事による現地調査をはじめ、県議会におかれましても総務常任委員会をはじめ、各組織等の皆様に現地入りしていただき重ねて御礼を申し上げます。

7月末日には、市長と連名で、知事および県議会議員へ令和2年7月豪雨に関する緊急要望を行わせていただきましたが、今後も創造的復興に向けた財政的支援およびインフラ整備等について引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

市議会の取組みにつきましては、今回の豪雨災害に関しまして、市議会としましては、市の災害対策本部設置と同時に市議会災害対策会議を設置し、当対策会議内に部会を設け、災害対応に当たって参っております。

今後は市議会として、あらゆる災害緊急事態に対応するための、初動から実動について検証を行って参りたいと思っております。

知事および県議会におかれましては、お力添えをお願いする場面もあらうかと思っておりますが、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

治水についてでございますが、今回の豪雨災害に伴い、県にご支援いただきま

した仮設住宅の建設に際しましては、適地の選定にあたって、市の担当部署によりますと、平野部における洪水浸水想定区域は非常に広大なことであることから、候補地の選定に苦慮した部分があったように聞いております。

つきましては山間部の球磨川流域のみならず、下流部に位置する八代市萩原地区および球磨川河口域、さらには球磨川本流をはじめ支流、二級河川を含め河川区域における堤防補強や、河川掘削等の対策実地にむけ一層のご配慮をお願い申し上げます。

最後になりますが、市長とともに役員を務めております球磨川下流改修期成会の立場としましても令和2年7月豪雨をふまえ、球磨川流域の住民が地域に戻り、将来に向かって安全安心に暮らせるよう、更なる国土強靱化に向け、近年の気候変動や最新のデータ等に基づくあらゆる方策や可能性を踏まえた抜本的な治水対策を早急に講じていただきますようよろしくお願い申し上げます。以上です。

【芦北町町長 竹崎 一成】

芦北町の竹崎でございます。

まず知事、副知事におかれましては先般の町村会の創立100周年記念、お忙しい中にご出席いただきましてありがとうございます。御礼を申し上げたいと思います。

さて、災害から4か月が過ぎたわけございまして、私も今まだ被災地を一軒、一軒訪問しております。

2,000軒余の浸水被害を受けたわけございまして、実は2,000軒余の浸水被害家屋の中の9割は佐敷川、田浦川、湯浦川の水域にあるわけでありまして、球磨川のほうにつきましては先ほど来お話が出ておりますが、知事が本当に超人的な行動を起こしていただいております、心から敬服をいたしております。

その中で早晚方向性を示されるということでございますので、どのような方向にせよ、流域住民の方々もその方向さえわかれば、これからの生活再建についてもなりわいについても、一つの目安ができるんじゃないかなというふうには思っております。

ただ、本町のスタンスとしましては、生命財産を守るためには、やはりダム排除の議論は合理的でないというふうに思っておりますので、科学的な検証を進められる中で、そして時代の趨勢を鑑みられた中で適切なるご判断を願うところであります。

流域住民の方に聞きますと、人命財産を守るためと私が申し上げますと、中には財産はいらんのだと、命を助けてくれということをお願いいたします。

そういうことから、人命第一ということで治水対策にはあらゆる方策を勘案していただきたいと、そう強く願うわけでございます。

そういう中で、芦北町はもう20年以上前から球磨川、芦北が15キロようしておりますけれども、その中に橋らしい橋は大野大橋が一本なんですね。

後は車が一両通るか通らんかという橋が告のほうと神瀬のほうにありますけれども、神瀬の橋はもう流されました。

神瀬橋がある頃、もう一本橋が欲しいんだと、人吉、球磨、八代市と、私、橋梁をずっと数えてまわったんですよ。そしたら芦北町が一番少ないんですね。

ですからもう一本、神瀬橋の他に欲しいということで、期成会も立ち上げまして、期成会には八代市長に入っていていただいて、議会も入っていております。球磨村も入っていていただいております。

そういうなかで仮称吉尾大橋をもう一本、まさかの時にこれはきっと国土強靱化ともつながっていくんだということでございましたが、当時の社会の情勢からしまして、やっぱり費用対効果というのが全面に打ち出されておりました。その頃は。

ですから費用対効果をいわれたら、もう手も足も出ないような状況でございましたが、今般はそのような事情にありませんので、橋が一本崩れてももう一本あるんだという、そういうことでぜひ仮称吉尾大橋につきましても球磨村、そして八代市さんとも話し合いをしながら、今後本格的にお願いをすることになると思いますので、その辺もどうぞよろしくお願い申し上げておきたいと思っております。

それと県の管理河川の話、冒頭申し上げましたけれども、ご高齢の方がお一人住まい、お二人住まいでございますが、口々におっしゃいますのが、「怖かった」。大変でしたねと言うと、「もう、大変どころじゃない」という言葉が返ってまいりまして、「怖かった、怖かった」とおっしゃってます。

ご高齢の方が首元まで水が家の中できて、もう足も前に一歩進める力もご高齢の方はありません。本当に奇跡的だったと思います。生き延びてこられた方々ですね。しっかりとお見舞いも申し上げるわけでございますが、そのときに、やがて佐敷川も知事がおっしゃいましたですね、掘削がもう始まりますよということで申し上げますと、大層喜ばれます。

ですから、今被災された方々にお話するのは、先に向けて安心できるようなお話、目に見える形、あるいは耳に聞こえる形で重機がどんどんどんどん動き出すと、そのことで希望を、生き甲斐というものをまたお持ちになるんじゃないかなと思います。

これは廻った私の実感でございまして、重ねてになりますけれども湯浦川ももう業者の方が決まりましたよと、やがて工事に入りますよと、その喜びよう、

安心のしよは本当に伝わってくるんですよ。

そういうことで、ぜひやれるところからきちんとやっていただく。

芦北の地域振興局のほうからも詳しく説明を承っておりますので、私も廻るなかできちんとそれを説明して参りたいなと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

さらにはその次の段階になります、県管理河川本流には支流がございます。支川が繋がっています。その支川には谷川が繋がってしまひて、また沢からの水が、これもう人間の血管みたいに、毛細血管みたいに広がっています。

これは先々の話になりますけれども、現場の山にも随分登りました。

それを見てもう気の遠くなるようなことになるわけですけれども、しかしそこをきちんとしていかなければならない。河川改修とあわせて治山のほうですね。あるいは砂防のほうですね。

このほうもぜひ、もう既に調査は入っていただいておりますけれども、以前イエローゾーンとかレッドゾーンにある麓の方々は、不安な日々をお暮しでございますので、その治山治水、砂防につきましても既に国の直轄で33か所大規模損壊の所をやっていただくということで、これはもうひと安心しているところでございますが、あと140か所がございますので、その辺の林道崩壊、山腹崩壊あわせて、もう既に十分事情はご存知でございますので、これも一時も早いお取り組みをいただければと思ひているところでございます。

それから小中学校につきましては、特段のご配慮本当にありがとうございます。知事がおっしゃいましたように子どもたちが全て卒業式はここで迎えたいということでございましたので、その見通しもつきまして、感謝を申し上げたいと思ひます。

そして芦北高校もまたIT企業との関連で、将来を見据えた職業選択の幅を広げるとか、自由度を高めるとか、そういうことで課目外ではありますけれども、いわば部活みたいな形になるかと思ひますけれども、これには町も相当力を入れておりますので、IT企業集積の町として教育分野も、人材育成の分野にも幅広く広げておるということでございまして、芦北高校のまた再建につきましてもぜひお願ひしておきたいと思ひます。

全体の復興計画につきましては、県からも職員を派遣していただきまして、本当にもう夜遅くまで取り組んでいただいております。もう頭が下がります。

いよいよ町民の皆さん方、各分野の皆さん方の話もお聞きしてそれを盛り込んでございまして、年明ければパブリックコメントを経まして議会の同意もいただきまして、年明けには住民の皆さんにもその復興計画をお示しできるかということでございますので、ただいまそれにつきましては順調に進んでおるところでございますので、よろしくお願ひいたしたいと思ひます。

重ねて重ねて今般の未曾有の大水害につきましては、県の力添えなしには今日を迎えることはできませんでした。改めて御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

【芦北町議会議長 宮尾 秀行】

おはようございます。

蒲島知事をはじめ県の皆様方には発災直後から芦北町に入らせていただきまして、いろいろご指導くださり、誠にありがとうございました。心より御礼を申し上げます。

ただ今、芦北町町長のほうからもお話がありましたとおり、既に川底に杭木を打ってあります。それを住民の皆様方に説明をして、もうすぐ浚渫が始まるからというような話をすれば、大変喜んで、これはよかったと、この前の雨量よりも少ない雨量で、もう今度はたくさんの被害が出るだろうというような話を皆さんされて心配をされておりました。

田浦川は昭和57年の水害と二度にわたって大きな水害をもたらしました。

事実、うちも川のすぐ横でございますので、2回被害に遭ったところでございます。

その時、皆様方のお力添え、そして町の動き、素早くしていただいたことに皆様がどれだけ安心したことかわかりません。

今後地域住民に寄り添って、現場に足を運んでお話をさせていただければ、議会といたしましても大変嬉しく思います。

発災直後、芦北町議会といたしましても、災害対策支援本部を立ち上げまして、随時議会の皆さんと集まって地域の情報を受けたわけでありまして。

発災直後は議員の皆もパニックになっておりました。被災をした議員たちもたくさんおりましたので、うちの周辺が一番ひどいんだ、ここを早くしてくれと、役場の職員は大変困っておりました。

ですから議会で集中して話をまとめて、議会として行政のほうに随時順番を決めて行動を起こしていただいたところです。

まず最初に命を守るべき行動、そして二次被害が発生するようなところを抑える行動、それからその次に産業の行動、その順番で議会としても行政に意見を出しておりました。

そして、徐々に災害のひどさがわかってくると、私も3日目から役場に行きまして、そして個人的には地域の農地被害等を回っておりました。

7月4日といえば、芦北の名産であります加温デコポン、一生懸命仕事をして総仕上げの時期でございます。今まで一生懸命作業をして、いい実をならせている大きなハウスが3mほど土砂に浸かっておりました。

その方は芦北町でも水俣管内、JAあしきたの中でも一番にデコポンを作られる方であります。途方に暮れております。

どうか一日も早くこの土砂でも撤去していただければ、ハウスの片づけは自分達でできるんだがというような話をされました。

もう今年のみかんはダメになったと思います。

水害が起きれば、あるいは災害が起きれば、目に見えて農家の方が減ります。

私は蒲島知事が発災直後に芦北町に来られて、大きな意味で新しい造成をしたほうがいいんじゃないか、新しい安心安全な宅地を作ったほうがいいんじゃないかというお話を聞きまして、私はそのとおりじゃないかと思います。

地域の、村々の歴史は変わろうとも、そこに暮らす人々の芦北町への愛着心、地域に向かう、その伝統が変わらなければ、その地域は脈々となりわいが残っていくんじゃないかかと思えます。今後は平地の少ない芦北町には、どうか住民が安心して暮らせるような宅地があったらなというふうに私は思っております。

先ほどの田浦川の問題でありますけれども、延長は6キロか7キロぐらいしかありませんでしょう。

歩いて行ってもすぐたどり着けるような田浦川であります。そこに80cmから1mほどの土砂が堆積しております。ぜひこれは浚渫をしていただければなというふうに思えます。

また、全国的に山林も荒れております。杉・檜の山林が荒れているようなところは、それに代わるような何か根を深く張らせて地面、斜面を守るような新しい植物は無いのかなというふうにも思えます。ぜひ検討をいただければと思います。

やはり生まれ育った地域は、その村は住めば都、お年寄りの方はなかなか離れようとしたしませんけれども、今後は大きな災害、地震、水害がいつなるとき起きるかわかりませんので、ぜひその住む先の宅地等の造成も考えられ、そして県のほうからでも、またその人たちに住むならばどういうふうな方策をしなければいけないか、あるいは新しい新天地に向かう時にはどのような考えがあるのかというようなことも、県、町ともに考えて今後も進めていただければというふうに思えます。

本当に熊本県の蒲島知事をはじめ、皆さん方のお力添え、感謝を申しますと共に、今後もよろしく申し上げまして芦北町議会議長としての要望にかえさせていただきます。ありがとうございます。

【津奈木町町長 山田 豊隆】

皆さんおはようございます。津奈木町長の山田でございます。よろしく願いをいたします。

先ほど来、中村市長、竹崎町長のほうから県に対しまして非常に御礼がございました。

津奈木町といたしましても、本当に自衛隊あるいは仮設住宅、もう本当に迅速な対応をしていただきましたことに対しまして、本当に厚く御礼を申し上げますというふうに思います。

また津奈木町でも、面積は狭いですがけれども、3名の尊い命が亡くなっております。非常に行政の長として、一番この災害で残念だったのが、人の命が亡くなったということが一番でございます。

河川、山、それは復興はできます。でも、人の命これは復興できません。

本当に災害現場の不明者を自衛隊、消防あるいは警察、あるいは消防団、探す中で遺族の方もみておられます。

そして、全員見つかりました。遺族の方が御礼を申し、役場に来て本当にありがとうございましたと。それを聞いたとたんに命というのは大切だなと、本当に思いました。それを聞いて何も言えませんでした。

本当にこれから安心、安全なまちづくりをするためには、まずは住民の命、これが大事だろうというふうにすごく考えました。

そのためにはどうやっていくかというのを、改めて考えなければならないんだろうというふうに今思っております。

非常にこの災害によってまたコロナによって、人の安全を考えるために行政がどうしていかなければならないかというのを突き付けられたと感じました。

その中でやはり河川、山、どうしても二次的災害、命を守るためにどうしたらいいのかというのを考えなければいけないだろうというふうに思いますし、また球磨川の、ダムにしてもいろんなデータがございます。命を守るためだったら、どんな方でも考えなきゃいけないだろうなというふうに思います。いろんな選択肢があるなかで、いろんな選択肢をプラスされてやっていただきたいなと感じております。

津奈木町でも非常に危惧したのが、球磨川流域復興基金、これが12市町村ということで明文化されておりました、津奈木町というのが出ておりません。非常に町民の方が危惧されておりました。

この前県議会を傍聴いたしまして、荒川県議の一般質問の中で、津奈木町、芦北町とかどうなるんですか、佐敷川、津奈木川はどうなるんですかという質問がありました。

そこで蒲島知事が津奈木町も含めますということで、非常に安心をしたところでございます。

これで津奈木町の住民の命を守れた、予防ができたなというふうに感じたところでございます。御礼を申し上げたいと思います。

その中で、やはり先ほど竹崎町長がおっしゃった、重要河川の中でまた支流がございます。津奈木も津奈木川がございますし、染竹川あるいは久子川等がございます。

そのなかで、やはり堆積、浚渫あるいは堤防のかさ上げとか、そういうのがぜひ必要だなというふうに感じたところでございます。

いろんな公共施設とか近くには保育園とか、浸水した被害がございますので、全線ではないでしょうけど、極力できる局部改良とか改修とかそういうところを津奈木町としてはお願いをしたいなというふうに考えているところでございます。

これからも熊本県あるいは市町村一体となって町民、県民のための命を大事にする政治をしていただければと、私はそう思っております。

#### 【津奈木町議会議長 川野雄一】

皆さん、おはようございます。津奈木町議会議長の川野でございます。

本日は本当にご多忙のなかに、蒲島知事をはじめ県当局の皆様方に意見を聴く場を設けていただきまして本当にありがとうございます。

議会の要望といたしましては、町長が申したとおり、一体となって取り組んでおりますので、協議をしたなかでやっております。

そのような中で、一つだけ気になったのが河川災害の件ですが、津奈木町にも県の管理、町の管理というものが当然ございます。

そのようななかで災害箇所について一回被災した箇所が復旧をした後にまた被災をしているわけですね。

そのような場所については、住民がせつかくきれいに復旧したのになぜまた再災害が起きたのかというような意見が出ておりますので、その辺については、線形を含め原型復旧にこだわらないというようなことも聞いておりますので、その辺の復旧のほうをよろしく願いをしておきます。

先ほど来、河川については、河床が堆積物が溜まってもう浅くなっているようなことで、一番要望があるのは、やはり家の近くまでも水が上がって来るといったようなこととございますので、そのようなことがないように、二次災害が絶対起きないようなそういう方法を、まずは河川の掘削等をしていただければと思っております。

それでうちのほうもいろんな国の支援を受けまして、工事の方は応急工事が終わって、今復旧の方に向かって設計書を作り、査定を受けて順次取り組むというような段階にきております。

そのような中で今一番住民が心配しているのが、河川災害と水田の埋設というんですかね、土砂が溜まった。それが一緒になっているわけですね。

そのような中では、工事の時期はいつ頃になるのかというようなことを心配されておりますので、なぜそういうことを言われるかということですが、やはり来年になったら水稻を作りたい、米ですね、そういうのがございますので、できましたら県のほうも頑張っておられますので、そういう時期等については町と協議していただければ、住民も安心して次の農業の目標が立てられるんじゃないかと思っております。

そのような中で、先ほど町長の方からありましたように、7月豪雨によって町内に甚大な被害を受けて、3名の尊い命が失われたわけです。

そのような中で、本町でも国、県の支援を受けて一日も早い復旧・復興に向けて取り組んでおりますが、何せ技術職の職員の不足と財政基盤も脆弱でありますので、早期の復旧・復興を実現するためには、国、県の強力な支援が必要でありますので、特段のご配慮を賜りますようお願いいたしまして終わります。

#### 【蒲島知事】

それでは私のほうから感謝の気持ちを表すとともにコメントをさせていただきますと思います。

皆様からいただいた、特に生命財産を守ると、そのなかでも生命を守るということを私も知事をやっていて改めてその重要性を感じました。

今回は65名の方の尊い命が失われ、2名の方がまだ行方不明であります。

私も知事になって、知事として大事な役割は人々の生命を守ることだと、それをずっと思ってまいりましたので、これからの治水対策を考える時に、まず生命そして財産を守り、そして皆さんが愛する球磨川流域の恵み、そして清流、そして環境を守り、両立させることが重要ではないかなというふうな考えにいたりしました。

ただ、皆さんと同じようにやっぱり県民の、また皆さんの場合は市町村民の方々の命が一人でも失われることがどれほど大変なことかというのが、私も気持ちが共有できるもっともな部分ではないかなと思っております。

なかなか市町村長になったり、あるいは知事になったり、総理も同じだと思いますけれども、そういう意味ではその重要性がこういうふうな災害の時に多くの人命が亡くなった時、二度と起こしちゃいけないというふうに思う気持ちが、今日皆さんのお気持ちを聞いて一緒であるなというふうに感じた次第であります。

その他に様々なご要望について伺いましたけれども、これも県庁とそれから市町村と共有しながらやっていきたいなと思っております。

今回の災害で支川の重要性、これがとても顕在化したかなと思っております。

大きな川だけではなくて、支流、支川、そこにもやっぱり多くの河床が上がっ

たり、河床掘削が必要な所が、皆さんの今日の要望の中にもたくさん入ってきたのかなとこのように思います。

これについては今県庁としても体制を整えてしっかりとやっていきたいなとこのように思っています。

後でまたご挨拶は申し上げますけれども、まず皆さんからいただいた気持ちをしっかり受け止めて、これからの治水の方向性についても、しっかりやっていかなきゃいけないなと改めて思った次第であります。

今日は本当にありがとうございました。

### 【田嶋副知事】

副知事の田嶋です。よろしくお願いします。

今日はお願いといいますか、せっかくの機会なのでお願いしたいなと思っています。

一つは、私のところに先週から苦情が来ています。

坂本町のほうで家を再建したいと、そういうような相談をしたところ、今建っている場所が土砂災害危険区域のいわゆるレッドゾーンなんです。

いわゆるレッドゾーンならば家が建てられないとか、住むにしても様々な補強が必要ですよというような法の建付けになってて、非常に厳しいということでございます。

昨日、砂防課長ともちょっとお話をして、単純にその砂防だけの話ですればそうかもしれないが、今回球磨川流域の問題というのは、急峻な山地が川に迫ってて、狭い所に家が張り付いている。そういうような流域の特性の中で、非常に大きな住家の被害等が起きていると。今後その再生を果たす中で、先ほど中村市長からもあった、支所をどうするかとか、それとか地域をどこで復興するかという非常に大きな問題があって、単に一つの法律じゃなくてこの地域全体として、自分達が生まれた地域でどう最後まで住んでいくのかとか、自分達のなりわいや地域の再生をどうするのかという考え方を整理しなければ、今回の問題は解決できないと思っています。

単純に今の法体系だけで判断せずに、今後の再生の方向性を一つ一つ確認しながら、総合的な様々な法律の壁を越えていく必要もございますので、今、復旧・復興の意見交換もしていただいていますので、ぜひ県も一緒に入ってそういう中で、今後の流域の治水方向性が決まれば、高さの問題、そして先ほどのエリアをどこにするのかという問題を一つ一つ片づけていく必要がございますので、ただ単純に砂防はだめですよとか、そういう答えを出さずに一つ一つ今から一緒に考えていきたいと思いますので、ぜひ私達も取り組んで参りますので、そういうような取り組みもお願いしたいなと思います。どこも事情は一緒だと思

います。

本当に狭い川沿いのところに張り付いていて、そこが今回大きな洪水で被害に遭ったと、今後どこで自分達の住まいを再建していくのかというのは、皆悩んでいるし、それをしっかりとした方向性をもって、私たちがどのような手助けができるのかをしっかりと考えなきゃいけないと思っていますので、ぜひ一緒に頑張ってみますのでよろしくお願いいたします。

#### 【蒲島知事】

今のことは、ずっと熊本地震から熊本県は創造的復興という形で前よりもいい形で復興しようと、その時に必ず壁になるのは縦割りの壁があります。

その縦割りを乗り越えるために、ぜひ県庁とご相談いただきたい。県南広域本部長の田村君にしっかりとっておきます。

その縦割りをなくして、真剣に、例えば坂本町がどうなるかって、これはとても大事なことですよね。そういうことも含めて話し合っていたいただきたいなと思います。

そして何かあったら知事、副知事のところに来れば、また国との協調もできると思います。よろしくお願いします。

#### 【八代市長 中村 博生】

今の苦情は、大変申し訳ないというか、ありがとうございます。これは今回の災害だけではなくて、この砂防を含め急傾斜地ですね、これはいろんな決まりごとがあってなかなかできない部分があります。

実際2年前に相談がありましたけれども、いろいろあるんですけど、なかなか進められないというか、そういった決まりごとを説明しても理解はしてもらえない中で、段々わかっていただけるような状況だと思っていますので、これについては皆さんの所も一緒だと思っています。やっぱり山間地域にはそういった箇所がたくさんございますので、今後いかなる大雨が降るかもわかりませんので、流域だけではなくて、やっぱり県全体的にも、そういった事情があらうかと思っていますので、その辺も含めて進めていただければ大変ありがたいなと思います。

#### 【八代市議会議長 中村 和美】

一つお願いでございますが、先ほど河川掘削というお話をさせていただきましたけど、新萩原橋一帯、そして、植柳港の一帯が非常に堆積土が多くて、川辺川ダムの問題もあるかもしれませんけれども、それは相当時間がかかります。ただ、今早くやるのが大事であらうと、その早くやるためには八代としましては本当に今、中州が目立ってきております。

そういう中州が目立ってきていることから、川の流れも悪くなってきておるんじゃないかということで私は思っておりますので、新萩原橋一帯、そしてそれから河口までも、ぜひ土砂を浚渫していただくと、これなら1、2年でできるんじゃないかと、そうすることによって上のほうの、副知事おっしゃいましたけど、川沿いの民家の人たちも少しは川の流れがよくなると、滞りがなくなると、そこでそういう床下浸水も少なからず対応できるんじゃないかと私個人思っておりますので、ぜひ新萩原橋一帯、そしてそれから球磨川の河口まで浚渫をまずしていただくことを心よりお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

【八代市長 中村 博生】

今の件ですが、ちょっといいですか。

今の萩原もそうですけれども、河口ですね、この間、漁協のほうからございまして、途中途中、船が汐待ちしていないと行き来出来ないような場所が2か所ぐらいあるんですけど、その場所、場所でどこがするかとか、いろいろ話があったようですので、国交省も八代復興出張所を立ち上げていただいておりますので、その辺も含めて検討、いろんなそういう協議に連携をしていただければ、うちでやらないといけないとは思っているんですけど、もしそういったものがございましてよろしくお願いしたいと思います。

【芦北町町長 竹崎 一成】

芦北町でも11名の方が犠牲になられたわけでございます。なお一人の方が行方不明。ご承知のとおりでございますが、その亡くなられた11名の方のうち9名の方が土砂崩れ、山腹崩壊なんですね。

ですから河川の洪水によりまして、増水によりまして犠牲になられた方もおられますが、圧倒的にそういう土砂崩れの犠牲に遭っておられますので、特にその付近ご配慮のほうを。81%がもう山でございまして、そういう所だけでございますが、いろんな国の補助とか県の補助もご配慮いただく方法が、知事がおっしゃいましたように総合的にあるわけではありますが、なかなか難しい面もございまして、市長もおっしゃいましたようにですね。しかしそういう地形の場所に犠牲者の方が多く出られたということ、再度ご理解をいただければと思います。

それと、これは既にご相談をしておりますけれども、農地と河川と災害箇所が一体的になっているところがございまして、そういうところが知事がおっしゃった縦割りとか、時間がかかるとか、いろいろコストがかかることもございまして、もう副知事のほうにも、農政部長さんのほうにもお願いしておりますが、今日も実はあったんですよ。

ここに来る直前に、農地がある、横は川でここも崩れておると、しかし別々にやっていかないといけないということで、時間もかかる、コストもかかる。そうすると生産の再建が、農業生産が更に遅れるということがありますので、一体的にできたらいいというのが本当に純朴な被災者の方々の声でございますので、その辺の縦割りを、ひとつよろしく願いしておきたいと思えます。

**【田嶋副知事】**

土木も農政も今連携してやっておりますので、おっしゃるようにしっかりとした連携のもとにできるように頑張りますので、よろしくお願ひします。

(以 上)